



「まえばし水と緑の環境賞」

高効率エネルギーで省エネに成功

富士スバル 本社ビル

昨年度使用量は 従来比34%削減

馬場内の企業としては初、始め、空調や換気の高効率で行われた。夜間電力率化、照明設備における活用した大温度差ヒート感センサーなどを採用（地上9階建て）では、トポンプチラーの導入をすることで、エネルギーテナント入居を除くラフ

この活動は、経済産業省の外郭団体である新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の推進補助事業の一つ。群

富士スバル（斎藤社長）は、本社ビル（群馬県前橋市）で高効率エネルギーシステムの導入によって建物全体の省エネ化に取り組んでいる。地下蓄熱層の設置やエコ管理システムの導入、全スタッフの協力などにより、05年度はエネルギー使用量を従来比で34%（ジュール換算）削減した。



「水と緑の環境賞」大賞を受賞

前橋市などからも表彰受ける

ロアを富士オートなどの関連企業で使用しており、グループ全体で「チーム・マイナス6%」（温室効果ガス排出量6%の削減を目指す国民的プロジェクト）に参加している。冷房28度、暖房20度の温度設定やアイドリングストップの徹底、グリーン商品の購入促進などが具体的な項目。全社的な取り組みによって、ビル全体では月100万円以上の高熱費削減を実現しているという。

こうした努力が実を結び、今年2月には「まえばし水と緑の環境賞」で、環境改善分野における大賞を受賞した。同賞は環境宣言都市である前橋市が主体となって実施している表彰制度。今年度は、環境保全に真剣に取り組んでいる県内四つの事業者（団体）が大賞を受けている。

（前橋）



上記は2006年4月18日、日刊自動車新聞での掲載内容、また上毛新聞でも同内容が掲載されました。

[実施要綱]

前橋市本町の富士オート本社ビルにおいて平成16年8月より地下蓄熱槽を利用した空調システムをはじめとした省エネルギーシステムを導入致しました。

当ビルは鉄骨造りの地下1階地上9階建。現在当社グループ会社のほか、銀行や保険会社、工務店なども入居し、既に建設から二十数年が経過し、熱源、空調、換気、照明などの各設備は経年劣化により効率が低下し、ランニングコストの上昇、設備の信頼性や安全性が課題となっていました。


これを機に、単なる設備更新に終止する事なく省エネルギーシステムを考え、環境保全・CO2削減に取り組みました。

新システムには本社西側の駐車場の地下に蓄熱槽を新設し、空調負荷の全てを夜間蓄熱によってまかなう「夜間電力利用水蓄熱システム」を導入しており、コスト削減につながっています。

また、換気システムは吸気で現状の36%、排気で40%までファン動力を抑制、照明には高効率インバーターと人感センサーを採用する事で利用を必要最低限にとどめる事が可能になりました。

このシステム導入により、CO2削減率が平成17年10月現在で従前システムに対し、37.2%と目標数値を上回る結果を出しています。設備による省エネと、社員の省エネへの取り組み（別紙 当社はチームマイナス6%に参加します）が功を奏しCO2削減に現れています。

この計画はNEDO（経済産業省の外郭団体で「新エネルギー・産業技術総合機構」の略）が推進する「住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業」に県内企業としては初めて採択を受けました。

 富士オート株式会社